平成 28 年 7 月 1 日

第１回遠野市総合教育会議会議録

遠　　野　　市

平成28年７月１日　第１回遠野市総合教育会議会議録

１　開催場所　遠野市役所とぴあ庁舎大会議室
２　開催日時　平成28年７月１日（金）　午前10時31分
３　出席状況
　○出席者

市長	本田敏秋
教育長	中浜艶子
委員	角田直樹
委員	千田由美子
委員	菊池　崇
委員	菊池和子

　○説明等のため出席した職員

教育部長兼中高連携サポート室長	澤村一行
子育て総合支援センター所長兼総合食育センター所長	多田博子
市民センター所長	鈴木惣喜
教務課長	畑山　透
学校教育課長	新井野邦夫
経営企画部次長兼政策推進総括課長	鈴木英呂
子育て総合支援課長	佐々木一富
総合食育推進課長	菊池幸司
文化課長	佐々木　修
生涯学習スポーツ課長	立花信一

開会・開議　　午前10時31分

１　開会

○教育部長
　おはようございます。定刻を過ぎましたが、ただいまから、平成28年度第１回遠野市総合教育会議を開催いたします。
　私は教育部長の澤村でございます。本日の会議の進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。
　本日は、市長、教育長、教育委員の皆さん全員の出席となっております。最初に市長から挨拶をいただきます。

○市長
　おはようございます。今日は７月１日であります。遠野高校も遠野緑峰高校も甲

子園を目指して、高校球児は白球を追っております。組み合わせも決まりました。遠野緑峰高校は春のセンバツに出た釜石高校と戦うことが報じられております。健闘してくれ、勝ってくれないかな、たぶん勝てるだろう。というような思いの中で組み合わせを見ました。高校球児も、そしてまた、高校総体の中で遠野の高校生も懸命に頑張っている姿がその中から見えるわけであります。

また、小学校の陸上競技大会のようすを遠野テレビで私も見ました。大健闘して北上の大会に行き、それぞれの学校で好成績を残した中学生も頑張っている。遠野中学校、東中学校、西中学校、それぞれの分野で大変健闘しているようすが報じられておりました。多くの市民の皆様も子どもたちに頑張れというエールを送っているのではないかと思っております。

今日７月１日、平成28年度の第１回遠野市総合教育会議を開催いたしました。公開ということで多くの関係者の皆様にも集まっていただいての、遠野の教育をどのように進めるかという会議であります。

昨年は５回にわたって総合教育会議を開催し、いじめの問題等につきましても、様々、教育委員の皆様と議論を交わしてまいりました。その中で、改めて遠野市という基礎自治体の中にあっても多くの課題があるのだと、単なる都市部だけの問題ではないのだなと改めてその中で感じたとともに、遠野の子どもたちは懸命に頑張っているのだなと、その中で確実な手ごたえとして、私も感じ取ることができたということであります。

教育委員会制度の改正が行われたことを受けまして、教育委員長職を廃止という中で改めて、中浜教育長にこの４月１日で教育長に就任していただきました。５月には、前の教育委員の三浦芳昌氏が、観光協会の会長に専念したいという意向の中で、辞職の申出がありましたので、これを受けることといたしまして、６月定例市議会に、この３月まで遠野北小学校の校長として現場で子どもたちと向き合っておった、菊池和子氏を教育委員として提案申し上げまして、議会の同意を頂いたということで、菊池和子委員が就任し、４月１日付けで就任した菊池崇委員、また、昨年11月に就任した千田委員と教育委員のメンバーもそれぞれ変わったわけでありますけれども、新たな体制の中で、この総合教育会議を機能させ、そして学力向上の問題、中高連携という中における県立高校の存続の問題、さらにはいじめ、引きこもりをはじめとする様々な子どもたちを取り巻く健全な教育環境をどのように構築していくのか、これは教育委員会だけのことと見過ごすわけにはいかない。

遠野市という基礎自治体の中でまさに総合力を示しながら、ソフト、ハードの教育環境をどのように構築していくかというのが極めて大事ではないのかという認識の元に、今日この総合教育会議の前に先立って開催されました、地域経営会議という新たな組織を立ち上げました。新たな組織というよりも、これまで様々な市政課題に立ち向かう政策会議とか、まち・ひと・しごと総合戦略本部会議だとかいろんな組織が立ち上がって、昨年、第二次総合計画、あるいは遠野スタイル創造発展総合戦略といった構想を、絵に描いた餅にするわけにいかないといった中で、第三次健全財政五ヶ年計画といったものを策定しながら、様々な組織の中で計画し策定することができたわけでありますけれども、いよいよこれを平成28年度からスタートさせなければならない、形にしていかなければならないということで、シンプル化、スリム化という言葉の中で、地域経営会議に一本化するという庁内組織を立ち上げました。

この会議が先ほど終わったところでありまして、それぞれの行財政の見直し、あるいはどのようにして、産業、雇用の確保、もう一方においては、きめ細かい子育てするなら遠野をどのように形にしていくのかを、そして、健康づくり、人づくり

、地域づくりといったキーワードをどのように展開していくかということについて地域経営会議の場で確認をしたところでありまして、そのメンバーが今日この総合教育会議もいわば一緒になって、総合教育会議の議論を聞いてもらうという形でこのように対応いたしました。

また、この総合教育会議は、すべて公開というスタンスで進めていますので、これから色々議論する課題につきましては、教育委員会の方にそれぞれ、様々な遠野を取り巻く教育環境等における現状の、特にも中高連携サポート室といったものも立ち上げながら、学力向上と中高連携といった県立高校２校体制の存続の問題も含めて、教育委員会にとって大きな課題になっておりますので、その辺を中心に今日は議論を進めてまいりたいと思っているところでございますので、よろしくお願いを申し上げたいと思っております。

この魅力ある高校づくり応援事業も中高連携サポート室が中心となって進めて、４月、５月、６月と、もう３箇月経過したわけでございますので、この中高連携サポート室のこれまでの３箇月間における作業なども、今日の総合教育会議の場で委員の皆様にも示されるかと思いますので、それを聞き取りいただきながら、建設的な、前向きな遠野としての一つのこだわりの中から議論を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたしまして、長めになりましたけれども挨拶に代えさせていただきます。

○教育部長

ありがとうございました。

次にこの会議の構成員の皆様を紹介いたします。

本田敏秋遠野市長、中浜艶子教育長、教育委員の皆様ですが、角田直樹委員、千田由美子委員、菊池崇委員、菊池和子委員です。

ここからは、遠野市総合教育会議設置要綱に基づきまして、市長が議長となりますことから、会議の進行を市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○市長

それでは、私が会議の進行をいたします。

次第の、それぞれの諸報告に入ります。経営企画部から説明をお願いします。

○経営企画部

経営企画部の鈴木でございます。よろしくお願いします。

それでは地域経営会議についてとなっておりますけれども、資料の本題は地域経営改革の取組についてということで資料を示しております。

今回の地域経営改革についてですが、行政と関係機関、団体及び地域住民が一緒に取り組み、効率的で効果的な遠野ならではの新しい公共のスタイルを構築することで、地域総合力を最大限に発揮することを目的として行っていくものでございます。

背景についてですが、平成14年度から経営懇話会等を立ち上げながら行ってきております。昨年度は健全財政５ヵ年計画、遠野スタイル創造発展総合戦略、そして第２次遠野市総合計画などを策定して進む、計画を立てたものであります。

取組に係る視点と実行項目です。７月25日開催の予定をしております、第２回の地域経営会議において、次の３点について具体的なたたき台を提示することにしておりますが、今回はその概略について簡単にご説明させていただきます。

３つの視点ということになりますが、一つ目は行政内部の体制と業務の見直し、これについては５ページ目にイメージと概略を説明しております。次の二つ目につきましては、第三セクター等の経営体強化ということで、６ページの方に概略を説明しております。三つ目に人づくりということで、７ページ目の方にそれらの概略を説明しております。２ページ目をご覧いただきたいと思います。

現在、市の行政の推進体制、様々な会議を立ち上げてきておりますが、シンプルに、そして機能的にというような場面から一本化等を図ってきたところです。５番目に市政推進体制のスリム化と機能の明確さということで、内部会議の体制を改めるためのものでございますが、政策会議、経営改革推進本部会議、まち・ひと・しごと推進本部会議など、一体的にまとめる、進めることで地域経営会議というものを設置しております。本日は会議の前段で９時からその会議を進めてきたところでございました。

２つ目に第二次遠野市総合計画の共通優先方針に連動する子育てするなら遠野推進本部と、６次産業推進本部、これらは、重点施策に対する遠野市の取組の発信と、住民及び関係団体を巻き込むための起点とすることから、看板は下ろさないということで、この２つの推進本部は継続することにしております。これは、当市の総合計画の共通優先方針へのこだわりを全面に出しているものであります。総合教育会議は地域経営会議と情報を共有することで連携を強化していくというように位置づけております。

４ページ目をご覧いただきたいと思います。外部構成員からなる審議会については、まず一つは遠野市総合計画審議会ということで、現委員の任期は来年の４月までとなっておりますが、まち・ひと・しごと創生法に基づく会議を進める中から、産学官金労言の分野に委員の方が見合っているような状況が分かっていたことから、オブザーバーとして今年度は参加をいただく予定にしております。来年の任期までの間、そのような形で対応していきたいと考えております。

そして、遠野市進化まちづくり検証委員会の第３次のことについて検討してまいりましたが、今回は地域経営会議参与という形で、地域全体の経営に対するアドバイザーをお願いするという形で考えております。現在参与としてはこのイメージ図の中にありますが、前の進化まちづくり検証委員会の委員である、岩手大学の小野寺純治先生と、県立大学の吉野英岐先生をお願いすることで現在進めているところでございます。第３セクターと連携推進懇談会を立ち上げながら、そして総合計画審議会と連動を図っていきながら進める予定でございます。

それでは、５ページ目をお願いします。３本の柱のうちの一つが、行政内部の体制と業務の見直しということで取り組むべき項目を、３点、実行項目になりますけれども行政組織の見直し、２点目は行政推進体制のスリム化と機能の明確化、これはすでに着手済ということになります。そして事務事業の見直しによるアウトソーシングを３点目ということにしております。経営改革推進チームということで市の職員でも若手職員のチームを編成して、すでに着手して草案等の洗い出し等をしているところでございます。来年４月からの新庁舎建設と併せて新組織の稼働を考えるということから４点の項目をこの再編の基本、核となるような考え方で進めていくことでございます。

６ページをお願いします。これは第三セクターの経営体強化ということで、すでに市では、平成23年２月に遠野スタイル自立連携行動プランを策定しております。この行動プランに基づいて進めていく予定です。本日午後から第三セクター連携推進懇談会を開催し、進めていくことでスタートを切る予定です。

７ページ目をご覧ください。この部分はひとづくりということから、現状と課題

等はあえて言うまでもございませんが、今まさに行政主導から市民協働へと変わろうとしている時でございます。地域コミュニティの再生ということで市民エネルギーを最大限に引き出すことを目的に現在進めていくことにしています。このひとづくりの部分では大きく真ん中の部分になりますが、まず市内部の市職員の部分ですが、その研修の拠点として遠野みらい創りカレッジの活用、そこを拠点ビルドとして考えて進めていくことになります。そして、地域づくりのリーダーとなる人材の育成に取り組むことですが、これは市民センター、地区センターを中心として、その拠点ということでこの部分も進めていくことになります。ひとづくりの部分では大きく二つの分野にわたって進めていくことになります。

そして最後に、この目指すべき姿、市、地域、企業、関係団体、福祉分野、子育て分野、地域づくり分野、六次産業分野ということでこれらの団体の協力、提携により永遠の日本のふるさと遠野の実現を目指すということのイメージが右側になっております。関連計画として、第二期教育振興基本計画、これは昨年度策定しておりますが、この計画はまさに幼児教育から家庭教育、小中学校教育、社会教育分野、多岐にわたる計画ですが、この昨年度策定した、教育基本振興計画も重要なひとつの計画と核になる部分ではございますが、これらを基に今年度はひとづくりを進めていくことにしております。

簡単ではございますが、地域経営会議と併せての今年度の遠野市の地域経営改革の取組についての説明とさせていただきます。以上です。

○市長

ご苦労様でした。ただいまの冒頭あいさつの中で申し上げたように、シンプル化、スリム化という言葉の中から効率的な行財政運営を求められているということでございまして、地域経営会議というものを立ち上げ、ただいま簡潔にご説明申し上げましたけれども、それぞれの市政課題、総合計画を、あるいは総合戦略を、第二期遠野市教育振興計画を形にするという意味におきまして、この経営会議がそういう役目を果たすというような中での論点とロードマップという一つのスケジュール表を皆様にもご説明、ご報告を申し上げたところであります。

そして、６月定例市議会が招集され、６月10日から17日まで行われたわけでありますけれども、この総合教育会議につきましても、会議の持ち方、あるいは事務局をどこにという中で、いろいろな議論が交わされました。私の方にもこの総合教育会議はどこが事務局を担いながら行うのかというような視点に立ったご質問もあったわけであります。

教育委員会制度が改正されたことも含め、総合教育会議が立ち上がったということを考えれば、この事務局につきましても、私も思うことがあったわけですけれども、教育委員会の方に事務局を置きながら、この地域経営会議と密接な連携をとって総合力を発揮する、そのような機能を発揮するほうが遠野にとっていいのではないだろうかという答弁も、申し上げたところでございますので、それを踏まえて総合教育会議のあり方について事務局の方から説明をいただきます。

○教務課長

教務課長の畑山です。総合教育会議のあり方について、スライドを利用して説明させていただきます。

まず、年間スケジュールの変更でございます。昨年来から総合教育会議を開催してございます。当初の段階で３回の定例会を予定し、随時という形で設けておりましたが、実際、昨年度は、５回会議を開催しております。昨今、市長が申し上げま

したとおり、高校再編の問題、いじめの問題、少子化の問題と、教育委員会だけでは解決できない問題が様々発生しておりまして、それに速やかに対応が求められるということもありますので、最低でも今後２年間は、開催頻度を増やす必要があるというように考えております。

そのほかに予算の確保、条例の提案が必要な場合などがありますので、そういったことを想定して、原則として市議会の前に開催しようと考えました。表にありますように、定例を２回減らして、年４回、今年も４回以上開催することとしたいと思っております。

そのほか、緊急の場合に備えまして、随時開催するということになります。議会の前を原則としております。今年はすでに５月を過ぎてしまいましたので、今回が第１回の開催となりました。仕掛けのタイミングといたしましては、夏休みであったり、予算の時期であったり、それから冬休み、年度末と考えております。

そして、会議のあり方ですが、原則として現状を分析した上で課題の抽出を行い、そしてそのあとの必要な施策手法を提出してまいりたいと思います。予算、条例案が必要な場合がございますので、そういうものも訴えながら話し合い、考えながら一定の方向性をまとめていく会議にしたいと思っております。それぞれ各開催の都度テーマを決めてという形で焦点がぼやけないような形で運営していきたいと考えております。

従来の教育委員会の会議との棲み分けですが、教育委員会内部で解決できる問題は解決していきます。その範囲を超えて、今日多くの関係部署のみなさんも出席していますが、その方々との連携、市内の関係団体あるいは外部の団体との連携が必要な案件、予算や条例改正が必要な案件に関しましては、総合教育会議を利用し調整を受けた上で、それぞれ教育委員会の会議において、審議していきたいと考えております。

下のほうに１、２、３、とあります。これは総合教育会議に向けて国のこんな例と定めたもので、去年もこれに従って会議を進めてきております。そのほかに遠野市としましては、ここに挙げましたように様々な課題が出てくるのではないかと想像しております。教育委員会だけの問題なのかと考えたとき、学力向上においては家庭教育の問題、地域の支えの問題、もしかしてＩＣＴを活用して様々な取組に向かっていくということが必要になります。

それから中高連携、すでに待ったなしの状態になっていますが、その取組も必要です。いじめ問題も発生した時に緊急的に対応すべき措置が必要だと、各部署の協力が必要だといった時にも開催していきたいと思っていますし、子育ての問題、先ほど市長も言いましたとおり、子育ての問題も大事です。それから、郷土芸能の伝承、これも遠野の地域を支える非常に大事な内容となっております。そして文化財の保護、地域の支援といったものをテーマとして挙げていきたいと思っております。今回は中高連携、これに関して取り上げるという形で開催したいと思います。

最後のまとめになりますが、市長からのあいさつにもがありましたように、総合教育会議を挟みまして、今回設立されました地域経営会議で協議したものを持ち帰って、従来からあります、行政側の決定機関、教育委員会側の決定機関である教育委員会定例会に持ち帰って、それを方向性をもって決議する。それで互いの情報共有、それぞれの課題の円滑な解決につなげることが可能だと考えています。そういう形で今年は運営しようと考えています。

以上、報告でございました。

○市長

ご苦労様でした。昨年５回の総合教育会議を開催したという前提があるわけでありますけども、市では、この４月から委員長制度がなくなり、教育長が３年の任期で教育行政の責任者という仕組みになって、その中で地域経営会議の概要をご説明申し上げました。

ただいまは総合教育会議の位置づけ、地域経営会議とどのような連携を図るのか、それから委員の皆様の、まさに大きな役目であり義務である、教育委員会の定例会とこのような棲み分けの中で総合教育会議があるのかということについてそれぞれコンパクトにそれを整理したものとして、ただいま説明があったわけでありますけども、何か、この地域経営と総合教育会議のあり方につきまして確認したいこと、あるいはご質問等がございましたら、ご発言お願いします。

最終的には首長部局との、いわゆる市長部局とどうということで、今日は地域経営会議のメンバーも皆この場に出席している、そのほかにも公開でありますから、関係者の皆様もこの席にいるということでありますけれども、そういった点でこれがどう機能させるか総合教育会議をどう機能させるか、教育委員会定例会といったものもきちんと整理しなければ、中二階屋上を置くという言葉があるのだが、そういう議論が交わされてしまう。ちゃんと棲み分けをしながら、お互い役割を果たしていかなければければならない。

委員のみなさんもそれぞれの立場の中における委員としての貴重な意見、提言といったものも教育行政には当然のことですが、きちっと反映しなければならない。そのための委員会制度があるわけですから、それと地域経営会議と総合教育会議といったものを、私はある程度これをレクチャー受けまして整備されたなというように受けとって説明を受けたわけですが、委員のみなさんはいかがでしょうか。

○角田委員

よろしいと思います。やはり、教育委員会定例会でこういったそれぞれの課題について、何か問題が発生した時に議論になるが、遠野市の教育委員会としての方向性なのかといったことがなかなか決定までに至らないということが実態でした。

今回、総合教育会議のほうで重点的なテーマを明確にして方向性といったものを決める場があるということは、すごく整理されたと思います。

○市長

千田委員はいかがですか。

○千田委員

分りやすくなったという感じがします。私たちも素人なものですから、定例会と総合教育会議の違いや何を話したらいいかという疑問点がありましたけど、このように示していただけると、このことについて話すのだと明確になると、私たちも意見とか出しやすいので良かったと思います。

○市長

菊池崇委員はいかがですか。

○菊池崇委員

私も日が浅くて、会議の意味合いがわからなかった部分もあるんですが、先ほどの説明を聞いて、非常に詳細の部分まで決められていまして、わかりやすいなと思いました。教育というのはこれから子どもたち、もちろんお年寄りを含めてですが

非常に大事なことだと思います。そこを皆さん一緒に考えていけるということを非常に良いと思っております。

○市長
　菊池和子委員はどうですか。

○菊池和子委員
　この中身が、よく分ったなと思います。そして、何が良かったかというと、タイミングというものがあって、教育にお金をかけるというか、ここできちっと予算との関わりの中で、ここで発言されたことを部署に持ち帰っていただいて、予算ももしかしたらっていう、そういう流れがきちんと捉えられているので、今まで以上に力を発揮できる会議なのかと考えます。

○市長
　教育長も、事務局の方から事前にレクチャーを受けていると思いますが、この場で改めて、総合教育会議と教育委員会定例会と地域経営会議をこのように棲み分けたということで、委員の皆様にも、教育長の立場としてコメントをいただければと思います。

○教育長
　角田委員もお話ししましたが、定例会議の中で議題となってきたものについて、教育委員会だけでは解決できない部分も色々出てまいりましたので、それがここで議題となり、そしてまた、地域経営会議の中で活かされていく部分については、大変スリム化されて、それぞれの役割を果たしていくのだと明確になったというように考えます。

○市長
　それでは、委員の皆様からの意見、所感をご披露いただきましたので、この総合教育会議のあり方につきましては、この方向で効率的な議論を展開してまいりたいと思いますので、こういった共通認識のもとに年間スケジュールもこのとおり示されておりまして、原則として現状分析、課題の抽出を行ったものを必要な施策、手法を提出する、そして、予算化、条例等の必要性を話し合い考える場、というような形での位置づけでありますし、高校再編、いじめ問題、少子化等、教育委員会部局単独で解決できない様々な課題に対し速やかに対応が求められることから、という言葉があるわけでございますけれども、大事な、大きな市政課題でありますから、この認識で進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。
　それでは、続いて報告の３番目に入りますけども、先ほど言いました、４月、５月、６月と３箇月経ちました。資料報告３として、少し分厚い資料でありますけれども、高校再編のピンチを地域人材育成のチャンスにという資料が委員の皆様の手元に配られていると思います。
　ピンチをチャンスというこのキーワード、すごく大切なことではないかと思っておりまして、その中で魅力ある高校づくり応援事業として、プログラムを組み立てた、これは４月１日に教育委員会の方に中高連携サポート室という新たな組織を立ち上げた一つの成果品でありますから、これを基にこの報告をいただいたあと、今日の協議事項に移ってまいりたいと思いますので、まずは、この報告をお願いします。

○教務課長

引き続き、スライドを活用してご説明します。

内容としましては、今市長が言いましたように、４月に立ち上げた中高連携サポート室が取り組んでおります、魅力ある高校づくり応援事業について説明します。

最初に、４月早々ですが、広報５月号に中高連携サポート室のアピールを兼ねて高校再編の問題を取り上げてさせていただきました。その中で様々な取組をやっていくということで自分たちに気合いを入れる意味でも、市民の皆さん、外部にもピーアールしたいということもありまして、広報の方に載せていただきました。画面では見づらいと思いますので、広報も配っております。ほとんどの方は見たと思いますが、参考にしながら話を聞いていただければと思います。

ここには、遠野の高校は遠野が守るということで、県に任せきりではなく、地元から大きな活動を起こしていかなければならないと、市議会議長、教育部長の談話を載せてございます。

最初にまず現状把握という形で数値を載せてあります。

まず、市内の高校への進学状況についてであります。この３月に卒業しました市内３中学校の卒業生は222名でございました。そのうち市外の高校に進学した方が70名、３人に１人が市外の高校に進学しているという状況がございます。

次に、何を理由として何を考慮して市外の高校を選択したのかということでございます。大学への進学を考慮したという方が一番多くて35名、必要なクラブ活動がなかったという方が21名、将来の仕事のことを考えてという方が14名という分析結果でございます。後ほど協議の中で今年の結果もご紹介したいと思っておりますが、４月の状況としてはこのような状況でした。

それから、市外高校への進学の種別ですが、今のところ、公立高校への進学が人気があるようでございます。多くの方が行っております。プレゼンとか、様々な生徒の確保などを見ますと、これから一番下にあります、私立高校の取組が目立ってきておりますので、これからなかなか油断できないと申しますか、伸びていくという風に考えております。こういう私立高校の強力な取組に対しても一緒になって地元への高校への進学を考えていかなければいけないということです。

ここには、３年間の遠野高校と緑峰高校の卒業後の進学状況の内訳を載せてあります。ここで何が見えるかといいますと、定員割れがあるという状況です。特に、緑峰高校の情報処理科におきましては、半数以下になっているという現状がありますので、市内での進学を考慮に入れながら、定員を確保していかなければならないというように改めて思うところです。

各地区別資料にありますが、一番が市外といった場合にターゲットになるのが、釜石、花巻、北上、盛岡の４地区に多くの方が進学しています。この中でも花巻地区への進学が顕著になってきています。次に釜石というようになっています。様々な分析結果をもとに対処していかなければ、なかなか難しいのではないかと思われます。

そして、次のページですが、市内の高校生の進路状況、緑峰高校と遠野高校の両校の進路状況を載せております。両校頑張っておりまして、進学のほか、就職に関しましても、100％という状況を続けております。

そして一番下の欄に、今年入学した生徒の現時点での就職希望を載せてございます。市内に就職したいという子どもたちが多いのですが、実際に実績を見ますと、賃金や通勤の面、様々な環境の面から、どうしても県外、市外の方に行ってしまうという場合もありますので、就職、将来の見通しも大事なこととなっていることが

伺い知れると思います。
　それでは、今の分析を受けまして、中高連携サポート室が取り組んでいる事業内容について、ご説明申し上げます。大きく４点に分けて説明したいと思います。
　一つ目は基礎データ収集、何をおいても各状況を知らなければならないので、この基礎データ収集のためのアクション。二つ目としましては、市内の中学生の地元高校への進学率向上、まず市内の生徒が高校に進学することを検討していただきたい。そういうところの取組も紹介したいと思います。三つ目に市外、県外から入学生の確保を図るという形の取組、四つ目ですが、高校の魅力化をアップしていかなければならない、魅力ある高校にしていかなければならないという取組を紹介したいと思います。
　最初に、一番目の基礎データ収集のためのアクションですが、後ほど紹介がありますが、市内中学生、２年生、３年生に対して保護者も対象にしましてアンケート調査を実施しております。現状を把握して何が選択のきっかけになったのかということになります。一部最近の結果として、後ほど協議の中でご説明を申し上げます。それと視察研修をやりたいと思っています。すでに県内、県外でも同じ悩みを抱えて取り組んでいる学校、市町村がございます。そういったところの先進地を見て参考にさせていただきたいということで、職員に加えて高校の先生方、市民会議の方、保護者の方、市議会の方を一緒に取り組んで視察研修を実施したいと考えております。二番目ですが、地元高校に進学してもらうためのアクションです。最初に中学生の受験生に最初に行います高校の説明会の開催時期は、従来は秋に開催していますが、その頃にはもう子どもたちの意思が決まっているだろうということで、これを前倒し早い時期にということでお願いしています。ここで受けた結果を各高校のオープンキャンパスに輸送して魅力を知ってもらうということになります。３校ありますが、遠野中学校は10月開催であったのを７月12日に開催し、東中、西中はすでに先日終了してございます。そういう形で前倒しして、できるだけ進路が固まる前にいろんなアクションを起こしていきたいということでございます。
　それから、説明そのものが魅力ある形で行わなければならないということで、各高校のプレゼン、アピール体制の強化も併せて支援していきたいと思います。なかなかその子どもたち、保護者に関してもプレゼンは非常に方向を左右する大きな要因となりますので、ここをきちっとやらないと入り口で振り向いてもらえないということがございますので、そのあたりのプレゼンの体制強化についても、教育委員会としても支援していきたいと思っております。
　それから、各高校の特色、なかなか一般の方々、家族の方々に学校の魅力を知ってもらうことが少ないと思われますので、それに伴うプロモーションビデオを作成しております。それを先ほどの高校説明会で流す方法もとっておりますし、今後も折を見て魅力溢れるプロモーションビデオを作っていきたいなと思います。
　市民向けとして、遠野テレビを活用しての放送、市外でのホームページを使って閲覧できるような形での掲載、そして場合によっては動画として配信していくというようなことを考えております。
　一番効果が大きいと考えておりますのが、４番目の取組になります。現役の高校生から母校の紹介に中学校に行く、出前講座の実施に向けて動いています。地元高校の生徒が誘導を図る、魅力を知ってもらう、検討してもらうという形で、高校生自らそれに取り組もうとしているところでございます。それから、高校それぞれ学習発表会や学園祭がございます。それが今まではどちらかというと内向き、自分達の内部向けのようなイメージでとらえられていたと思いますが、それを、地域、受験生に来てもらうような、そういう中身に転換していきたいというようなことを支

援していきたいと思います。これは高校の先生方とも協議しながら進めていくと、同意を得られたところでございますので、支援していきたいと思っております。
　そして６番目ですが、学力向上への取組ということで、先ほどの調査の実態で大学進学が大きなウェイトを占めておりますので、中央に比べると塾や学習環境が不利な状況にあるのは確かですので、先進地の例を参考に例えば、ＩＣＴを活用していろんな面で補えるとか、それから、地域においていろんな取組をすることで、補っていくというような、学力向上に向けた取組をとっていきたいと思います。ある程度固まった段階で総合教育会議の中で検討するということもあるかと思います。
　それから、市外県外からの入学生の確保についての取組ですが、市のホームページに両校のホームページを掲載する予定としております。併せて、両校のホームページそのものをもう少し魅力のある形に作り直していくことで、これを支援していきたいと思います。
　それから、先ほど２番目ですが、選択要因の中で大きなウェイトを占めましたクラブ活動、これに関しましても新たなものを創設していかなければならないというように考えます。指導者、予算など関わりますが、様々なものを作っていきたいと、そこには、空手、女子サッカー、郷土芸能の伝承、そして意外と効果があると言われるのが馬でございます。遠野馬の里がございますので、そういったところと連携して、新たなクラブ活動に関しても考えていきたいと思います。それから、サッカー部があることによって、特に遠野高校に大勢の生徒が入学しておりますのでそういう取り組みも進めていきたいと思います。
　３番目としまして、遠野市に縁のある方を巻き込んで、遠野市に何とか入れてもらえる形を作っていきたいと思っております。
　そして４番目ですが、高校のそもそもの魅力アップを図るアクションになります。これはすでに検討を進めているところでございますが、学校給食の導入、高校の給食の導入です。近隣だと住田高校などが取り組んでおります。なかなか好評だということで、保護者の負担の軽減ということもありますし、子どもたちの食生活の確保、安全確保ということもあります、そういった形で検討を進めていきたいと思います。
　それから課外講座の支援ということで、遠野市にはみらい創りカレッジがあります。優秀な先生方、関係者の方が見えておりますので、この方たちとタイアップして学力向上の話もしました、様々な人間としての生きる力、そういったものも学力に加えていけたらいいなと思っております。
　それから新規クラブでありますが、導入にあたっては日本でここしかない、というようなクラブも作っていけたらいいのかなと思います。例えば、それこそ馬の関係の動機で緑峰高校を選ぶという方もいますので、そういう遠野市唯一のクラブみたいなものも検討する余地があるかなと思います。
　そして４番目ですが、地元への就職に安心してつながるような、地元の経営者との懇話会そういったものもやっていかなければいけない。
　それから５番目ですが、各学校が取り組んでいます防災、後方支援活動、こういったものを県に任せるのではなくて、市としても強力に支援していくような形で、せっかく蒔いた種が育つように、その苗を支援していけたらなと思っております。
　そして特別課外講座ということで、馬事文化、郷土芸能など様々な可能性、子供たちの可能性を伸ばしていけるような各知識のスキルアップが育まれるようにそういう環境を作っていけたらなと思っております。このページと次のページにあります、学校給食、高校生を対象としました学校給食、給食センターで聞き取りしていただいた内容を掲載してございます。県内多くのところで、すでに学校給食に歩き

出していると思われます。それぞれ高校でございます。それを参考にしながら遠野市としてはどういった内容が良いのか検討していきたいと思います。

今言った内容につきまして、やはり関係部署との連携と、お集まりいただきました各部長さんたちにお願いがあります。学校給食の導入にあたっても課外授業の支援にあたってもいろんな部署との連携が必要になります。教育委員会だけではなかなか対応が難しいものもありますので、折に触れて様々な協力をお願いする、あるいは一緒になって考えていただくという形をとっていきたいと思います。

下の方に総合教育会議の神髄と書いております、総合教育会議が設置された目的のひとつとして地方を活性化する、教育が地方を活性化するということがあります。これを成し遂げた全国ではそういう例もございます。島根県の隠岐島前高校のように子どもたちを集め、保護者が入り、そして若い人たちが活性化をし、地域おこしに繋がったという成功例もございます。

高校の活性化により、総合教育会議の価値も上がりますし、この中高連携サポート事業の目指すところではないかと思っております。そういう意味で、この総合教育会議をうまく使って地域の活性化に教育から地域の活性化につなげていきたいと思います。

最後のまとめになりますが、先ほど市長がおっしゃった高校再編のピンチを地域人材の育成へのチャンスへということで、すでに子育てするなら遠野というテーマを掲げています。この中でも、同じように不利な条件を様々な取組で、安心安全な子育て環境を作っていくという取組を進めてきたところでございます。教育のほうでも教育現場の取組を通じて、地域力、例えば、生まれる前の段階から子どもたちを小中高を通じて、子どもたちを地域が育てる、見守っていく、連携して人材を作っていく、そういう取組ができれば非常にいいのかなと思っております。そうは言いましても時間は限られてございます。今言った私のプランの策定に合わせて即効性のある取組を次々と同時並行して行っていかなければなりません。アクションプランの方は今回で終わりではなくて、次々と段階的に効果が積み上がるようにしていけたらと思います。概要でという形でご紹介申し上げました。以上で終わります。

○市長

報告事項として魅力ある高校づくり応援事業、４月１日付けで立ち上げました中高連携サポート室の３箇月間の作業の一つの結果が、ただいまの報告にありましたとおり、現状、および課題として整理され、さらには、アクションプランという中において、何をすべきなのか、この高校再編問題を、ピンチをチャンスと捉えながら、教育長にも私の方から話しましたが、今年の中学生の進路指導、来年の進路指導の２回しかチャンスがない、その中で我々も結果を出せなければ、県教委が示した再編計画を押し切られてしまう、というよりは、受けざるを得ないというような覚悟をしながらこの問題には取り組んでいかなければなりません。

そして、このレポートの最後に一つのキーワードがありました。22ページでありますが、この地方を活性化するには教育からというキーワードがありました。やはり子どもたちが存分に活躍する、活動するということが大きな活力を生み出す原動力となることは、これまでの様々な事例の中からも委員の皆さんもよく感じているのではないかというように思っております。

従って、高校再編やむを得なしという方程式はない、という中で我々は、この課題に取り組んでいかなければならないと思っております。今年の３月６日にシンポジウムがありました。いろんな意味でのいいシンポジウム、市民会議が立ち上がり

ました。そのシンポジウムと市民会議の立ち上げを受け、３月９日でしたが、県教委の高橋教育長、それから県議会議長、知事を市民会議のメンバーと当時の教育委員長、中浜委員長、当時の教育長の藤澤教育長に同行いたしまして、私も議長にも声をかけ、県教育長、知事、県議会議長等を訪問したわけであります。遠野の思いは分かったと、非常に言葉は穏やかであり、配慮した言葉遣いでありましたけども、それなりの覚悟で再編案を記したのだろうと十分に感じることができました。この問題はかなり手強い課題だなという問題と、もう一つは遠野だけの課題ではない少子化という大きな時代の流れにあっては、いずれは全県の問題になるという認識が、ちょっとなかったというように感じています。

この魅力あるという言葉の中から遠野として、どのような思いを形にするのかというこの応援事業の中に整備され、示されたと思っております。今日の協議内容にこの問題についての意見交換ということにしておりますので、魅力ある高校を作るアクションプランの策定に向けた意見交換が、これからの協議のテーマになりますけども、配付されている進路に関するアンケート、これはどこで説明するのか。

○教育部長

意見交換の前段で。

○市長

それでは、委員の方から質問なり確認したい事はありますか。協議の場に移ってよろしいですか。それでは、今日の総合教育会議のテーマであります、次の協議、調整という括弧１について、魅力ある高校づくり応援事業アクションプランに策定に向けた意見交換に移ります。

協議事項に入らせていただきますけど、事務局の方から何か追加してありますでしょうか。

○教育部長

私の方から。

○市長

はい、どうぞ。

○教育部長

それでは、資料の後ろにありますスケジュールをご覧いただきたいと思います。中高連携サポート室では４月の立ち上げから、先ほど教務課長が説明したとおり、先進地事例、あるいは、高校に進学した状況調査、６月下旬には中学生２年、３年、あるいは保護者にアンケートを実施しております。この７月以降、高校在校生へのアンケート、その保護者へのアンケートを実施する予定でございます。また、先進地視察等実施しまして意見集約、事業化に向けた展開を図っていきます。

アンケートにつきまして、お手元の方に中学２、３年生用の進路に関するアンケート調査の用紙をお配りしています。高校進学に関して様々な設問でどのような意識をもっているのかというような調査をしました。この調査結果ですが２、３日前に手元に届きました。この中学生の進路アンケート調査結果ということで、主な項目だけですが、中学校３年生、２年生の分を記載しています。３年生においては市内３中学校226名中、現時点で97名の生徒が市外の高校進学を希望しております。率では40％台を超える希望となっております。ただし、このアンケートにつきまして

は、高校の説明会等が実施される前であり、また、今後行われる三者面談等、学校の進路指導が実施されていない段階での、生徒たちの純粋に今の希望として、このように思っているという数字です。その中で、大学進学や学びたい学科があるという希望理由が一番となっておりまして、特にも注目したい部分は、高校を選ぶとき誰に相談するかです。お母さんに相談するが86人、お父さんに相談するが59人、友達、学校の先生の順になっております。地元に進学するうえで、生徒本人もさることながら保護者の皆さんに地元の高校の魅力を十分伝えることが非常に重要だと捉えております。

スケジュール表の中段になりますが、アクションプラン策定につきましては、10月中に成案したいと考えております。ただ、成案をしてから事業を進めるのでは、２回のチャンスに到底対応できるものではないということから、すでに、二高校の校長先生、三中学校の校長先生と中高連携校長会議を立ち上げて、高校それから、中学校の連携をどうするかの取組を進めております。先ほど説明しておりますように高校説明会を前倒ししたことによって、夏のオープンスクール、体験入学に繋げ、さらに鍋城祭、緑峰祭あるいは高校生の出前講座等、中学生と地元の高校生が交流する場を十分企画、実施して、高校への理解を深めてまいりたいと思います。

それから、みらい創りカレッジと連携した、両校に特化したプログラムの開発もすまた、空手、馬事の部創設の実現化に向けて、特に空手については、団体の代表者の理解を得ながら緑峰高校、遠野高校にきちんと部活として設置する方向で、校長たちと話し合いが進められているところでございます。

これから魅力化事業の第二弾、第三弾を企画していかなければなりませんが、これらが出揃ってアクションプランの成案となると捉えておりまして、その方向で進めております。

特にも、両校への学校給食の導入に向けた事業については、予算要求等もにらみながら前倒しして進めていきたいと考えています。

つきましては、入学者の確保に向けて、委員の皆様から意見を頂戴できればと思います。よろしくお願いします。

○市長

ただいま魅力ある高校づくり応援事業ということで整理したものを踏まえて、この工程表、ロードマップとして、第一弾、第二弾、第三弾という中で整理しながら作業を進めていく、確かに限られた時間の中で一つの結果を出さなければならない。冒頭の報告の中にありましたデータの客観的な分析が必要だということで、この中で色んな数字が出てきました。市外高校への進学目的の状況とか、様々な数字が整理されて出てきておりましたけれども、今年の６月に実施したアンケートでは、97名の生徒が市外の高校を進路として希望しているという現実であります。

この現実と我々がどう立ち向かうか、子どもの夢と希望があります。また保護者の考えもあります。その中でどのように子どもたちの夢と希望をきちんと反映させるのか、この地方を活性化するには教育からという中における、遠野市としての大きな課題もある。

やっぱり今は、県立高校だから県の問題じゃないよな。市町村の問題だよな。という話をした校長さんもおりましたけども、やはり、この少子化、あるいは道路も含め、ＩＣＴという情報通信技術も含め、どんどん利便性が高まり、移動が容易になっている。世界に羽ばたくことが簡単にできる。県境を越えての就学先を選べる、そういう時代になってきているわけですから、このアンケート調査もそういった意味では客観的に、冷静に我々も数字と向き合っていかなければならない。そうす

るとおのずと出てくる一つの答えは、いかに魅力のある高校として作り上げるかという課題にぶつかるのではというように私は捉えているわけであります。
　そうすることによって、ここで学んでみたいという環境をどう作るのかというのが、応援事業の中にも一つのハード、ソフトの問題が、これに整理されたのではないのかなと受け止めたわけであります。
　そういった視点に立って委員の皆さんから、この応援事業の工程表、さらには地域活性化という課題にどのように立ち向かって行ったらいいのかということについて意見をいただきたいと思います。
　千田委員から、今の説明を受けてなんでも結構ですから、意見交換の場ですから、結論を出すというよりも、委員の皆さんのご意見をいただいて中高連携サポート室あるいは、オール遠野の中で、その課題に立ち向かうわけですから、意見提言という中で、ご意見を出していただければと思います。

○千田委員
　昨日、遠野西中学校で行われた高校説明会を聞いてきました。西中学校は花巻学区になるわけですから、花巻の学校がプレゼンテーションする場がありました。そこに、遠野高校、緑峰高校もプレゼンテーションしたわけですが、花巻の高校のプレゼンテーションとは比較にならないくらい魅力が感じられなかったのが正直なところです。
　今年、来年の入学者の確保となると本当に難しいのではないかと思いました。
　高校って大事な場ではないですか。社会人に行く手前の進路を決める、大学に行くか就職するかというとこで、フォローの仕方が明確じゃない部分が、保護者としてどうなのかと思いました。緑峰高校もすごくいいことやっています。ホップ和紙とか、すごく画期的だなと思いますが、緑峰高校に入っていく意味の差がなかったり、いまひとつ、作っただけ、開発しただけだったりで終わっているイメージがあって、そこからもっとどこかに繋げていける場があれば違うと思いました。
　アンケート結果を見てびっくりなんですけども、再編が進んでいるという話がある高校には、親としては行かせたくないところがあると思うんです。途中から高校が変わってしまう、例えば、高校２年から違う名前の高校になってしまうのは、やっぱり親としては不安というか、そういう話が出ている高校にはあまり行かせたくないなとアンケート結果を見て思いました。
　ですから、早急なデータ収集も必要なのですけどスピードアップで、てこ入れしていかないと、２回の入学者の確保は非常に難しいと思いました。
　これから会議が多くなっても仕方ないと思うのですけど、結果を出すために色々取り組んでいかなければならないと思います。

○市長
　子どもを抱える保護者、女性の立場としての意見、アンケートについて、菊池和子委員はいかがですか。小学校という教育現場の中で、さまざま、子どもや保護者と向き合ってきたわけでありますけども、アンケート結果、あるいはアクションプランの組み立て、そういったものについての意見をいただければと思います。

○菊池和子委員
　３月に市民会議ができてから、今までの時間で、県に要望して、４、５、６月で本当によくここまでまとめられたなと私は思います。限られた時間というのが、一番優先的な感じなので、子どもたちが学校を選ぶ前にやらなくてはいけない、やら

なくては無理だなと思いました。例えば親だって給食を提供してくれるっていえば、もしかしたらそっちに行く親もあるし、色んな部分でそれがはっきりしないと、この二年間で子どもたちをという、そういったことは出来ないだろうなと思うし、そのほかに先ほどありましたピンチをチャンスにといったことで、チャンスはいったい何だろうって思いました。ということは、遠野市が良くなることがチャンスですよね。

そう考えたときに、このアクションプランが成功して、学校がトータル的に、遠野市がどんないい市になるのかというところをきちっと示していかないと、遠くからくる人も、遠野市はいいところだという、子育てするなら遠野だというのが分らないと、これからの二年間は厳しいのではないかと思います。

私たち皆、親としてもそうでしたが、やはり高校を選ぶときに、まず一回で入ってくれと思います。浪人して意思を貫く子もいるし、そうでない子は、その先の伸びが高校に行って見られないかと思うので、そのあたりも考慮して、これからを進めていければと思います。

アクションプラン自身については、すごくこの短い時間によく練られたプランだなと思います。

○市長

今、千田委員と、菊池委員から女性の目線に立っての説明に対する意見をいただきました。この二人の意見に対して教育長としての意見、コメントはどうですか。

○教育長

千田委員からスピードアップと、てこ入れが必要だと危機感を持った話がありましたが、やっぱり給食のことについても、早い段階で保護者に示していくことが必要だと、こういうことを市は支援をしていきますということを早く保護者に伝えることが必要と感じました。

それからもう一つ、中学２年、３年のアンケート結果から大学進学や学力に対する不安というものを子どもたちが抱えているので、それに向けた、てこ入れも必要かなと感じました。

もう少し高校とも連絡を取り合いながら、例えば高校の方でこういう風な学力に関する支援が必要だということも、早々に意見交換をしながら、その手立ても講じていかなければ、大学進学を目指している子どもたちは花巻だとか、北上とかそちらに行ってしまうのでは、という危機感をもったところです。

スピードアップしながら突っ走ってきたつもりですけども、そういう部分には急いで検討して、対応していかなければならないと感じたところです。

○市長

今、お二人の委員、教育長からもコメントいただきましたけれども、今度は父親の立場として、また企業人として、教育委員としても長い経験を踏んできています角田委員から意見をいただきます。

○角田委員

今日のこの報告、データを見まして、今の教育委員会の中でも、話題になっていたことですが、実際に、この数字を見ますと、ピンチをチャンスにといいますけれども、大ピンチですよね。衝撃的な数字だと感じました。子どもたちのアンケート、今の中学２年生、３年生に対してのアンケートの結果も、さらに信じられない内

容でしたが、この内容がそのままではないと思いますが、この子どもたちを一人でも多く、地元の高校に進学させるということ。これが短期的に集中してやらなければならないことだと思いました。

今回の取組は、魅力ある高校づくりに対して、市としても、何かしら取り組んでいくことは、大事なことであって、魅力ある高校づくりということを今から取り組んでいっても、なかなか結果に繋げることは難しいので、長期的な考え方と短期的に今年中にというものとに分けて考えていく必要があると思いまして、短期的なものでいうと、この数字の中で大学進学とか学びたい学科が市外にあるからということで、こういう子どもたちは、比較的自分の意思をもって宣言しているので、あまり動かないのかなと、注目すべきは③の市外に出てみたい、とりあえず出てみたい、とにかく市内は嫌、というこの数字が２年生の結果で見ると、さらに比べてみると２年生の段階では、曖昧な気持ちでとにかく市外に出てみたい、地元は嫌だという。それが３年生になるとやや現実的になって少し数が減ってきている。その子どもたちをどう留めるかというとやっぱり一番影響するのが親、親が地元の高校に対する地域に対する期待感、その地元の高校に対する期待感、信頼感が薄れてしまっては、この子どもたちは他にいってしまう。

これを引き留めるために、親に対して何を一番アピールするかというと、千田委員もおっしゃったように、きちんと実績として保護者に伝えるべきです。

例えば、遠野高校で進学に対する取組は、私も遠野高校だし、私の子どもたちも遠野高校でお世話になりましたが、決して悪いと思っていません。実績的にも、一部誇れるような内容のものもあるので、そういったものも数字として、これだけの実績があるというのを、他との比較は難しいかもしれないけれども、実績として保護者に伝えてほしい。それと子どもたちの考え方を少し変えるために、先輩である子どもたちの意見も非常に重要なので、出前講座で先輩がやってきて、うちの高校は、こんなにいいですよとそういう話、これもすごく大事ですけど、さらに、実際遠野高校から難関の大学に進学したとか、大きな企業に就職した子どもたちがいますので、追跡して、その進学をした、学校の指導によって、こういう大学に進学できたという実績を、子どもたちの感想を保護者に伝えていくような、そうすることによって地元でも進学に対しても、就職に対してもこうやって素晴らしい実績があるというような安心感、期待感を、まず伝えていくことが、今、すべきことではないかと思います。

○市長

菊池崇委員。

○菊池崇委員

いずれ、この２年で結果を出さなければならないと、即効性を求められていますので、まず、地元の子どもたちのアンケートを見て思うことで二点あります。

一つは、子どもたちに対して魅力あるプレゼンテーションをしていかなければならないと思います。一年前に私立の花巻東高校では、佐々木監督を西中に呼んで、プレゼンテーションをしたらしいですが、あんな講義を聞くと子どもたちは、心を奪われるわけです。あのくらいのプレゼンテーション、あれ以上のプレゼンテーションをしなくては、子どもたちは来たいと思えないと思います。そのくらい練りこんだプレゼンテーションを作成してアピールしていかなければならない。

もう一つは、具体的に数字を子どもたちに示して、あなた達は遠野という地域に生まれて、これからどうしていきたいかということを共に考える、18歳から選挙権

が与えられので、昔の子どもが多い時とは違います。一人ひとりが地域に立って遠野市に生まれて、この後、私はどうしていかなければないかと、具体的に考える機会を作ってあげないといけないと思います。

このデータにも出ていますけども、自分が将来何をやりたいか分からないけども、とりあえず外に出てみたいという生徒が意外に多い。

高校が一つになって、自分たちの子どもが一つしかない高校に入る、そういう時どうなるという、具体的な将来の見通しまで考える機会を与えて、子どもっていうだけじゃなく、大人になる良いきっかけとして、考える機会を与えてあげないと、市外に出てみたいという人達も含め、地元の高校に来てもらいたいようにしなくてはいけないと思います。もちろん、進学や部活で不安がある子どもたちもいますから、フォローアップは千田委員が言ったようにしなくてはいけないと思いますので、ぜひ、地元の高校に入っても進学できる、部活動もたくさん活躍できると、考えさせる機会を子どもたちに作ってあげないといけないと思います。自らの気持ちで遠野高校、緑峰高校に行きたいとしていかなければいけないと思います。

○市長

ありがとうございました。今、角田委員と菊池委員から意見をいただきました。教育長、今の二人の意見を聞いていかがですか。

○教育長

地元にいても進学できるという部分、やっぱり、これは即なんとか、子どもたちに伝えていきたい。学校で、こういう取組をするという部分も明確に早く出せるように、私たちも取組を急がなくてはと、11月、12月に出すのではなく、もう少し早い段階で私たちが吟味をして、保護者や子どもたちに示していけるように、急いでいかなくてはと思いました。

○市長

このアクションプランの中で色んな行動を前倒しに行っておりますから、この数字を冷静に受け止めながら、また、我々でやれることを、とにかくやる。

数字的なものを確保しながら、もう一方で魅力のあるものを皆の力で築き上げていくということの方向ではないかなと思いますが、今の皆さんの意見を聞いてもそれにつきるのかなと思ったのですが、何か付け加えたい事はありますでしょうか。

○角田委員

先ほど短期的にも、ここ数箇月で手掛けなければならないことと、長期的に遠野の地元の高校の魅力づくり、遠野の教育の魅力づくりを考えたときに、筆頭に取り組んでいただきたいのが、グローバル教育についてです。

英語の弁論のレベルが非常に低いと言われていて、なぜ、今更その英語教育を、グローバル教育を遠野で目指すのかと思うかもしれないけど、先日、グローバル教育研究所の代表を務めていらっしゃる渥美育子さんの講演を聞く機会がありまして、その方は、今の世界情勢の中で、本当に必要な教育というものは、グローバルな感覚を持った教育、国際協力において一番大事なことは、例えば、英語が上手に話せるとか、コミュニケーションですね。ただ、そのコミュニケーション能力というのは、英語が上手に話せるとか、何カ国の言葉が話せるとか、そういうことではない。実際海外に行っていろんな国の人たちと接して、コミュニケーションをとるには、あなたの国はどういう国ですか。あなたの生まれた地域はどういう国ですか。

何が自慢ですか。と、きちんと自分で理解をして、アピールできることだそうです。やはり海外の人と接するコミュニケーションというのは、そういうものを基に、今、私たちの遠野の中で強みとして活かしていけるのは、本当の意味でのグローバルな人材を育てるという意味で、地元に対する理解を高め、愛情を深める、そういう経験だからこそ、学力も、英語の能力も加わってグローバルな人材を活かせる。これは世界で活躍できるし、地元に戻ってきても活かせる。そういったことも、ぜひ、今後の教育に取り入れていきたいと思います。

○市長
　他には、ありますか。

○千田委員
　付け加えていいですか、昨日の説明会で、とある高校の方がプレゼンテーションで言っていましたが、機械とか生産、農業でも機械化でも電気化でも、今は英語の時代だと。これから人工知能が進んで、職がなくなる、人間がやっている職業として成り立たなくなるのが結構出てくる。それで生き残るのが何かというと、英語力だったり、コミュニケーション能力だったり、販売ツールとしても、世界インターネットで、どこでも見られる時代になってくるのであろうというのが、プレゼンテーションで言っていました。
　やはり、先見の明を見つつ、今、取り組まなければならない部分も見つつ、高校だけが考えるのではなく、市とか地域とか家庭とか、皆で頑張ってやっていかないと、子どもたち勝手に育つでしょ、ではないと思います。
　その遠野で育てた子が、いずれは遠野で活躍できるような、グローバルな視点を持っていかなければいけないと思います。

○市長
　菊池和子委員も何かありますか。

○菊池和子委員
　やはり、魅力ある高校っていうものは、県立高校だって、人材、先生方も変わるわけですよね。遠野高校はどういう高校なのか、緑峰高校はどういう高校なのかという、魅力を積極的にアピールし、将来的にはこんな風にできますよと、遠野の持っているこんなことに取り組めますよと、小さい時から、親御さんを含めたキャリア教育をきちっと小学校でやっていくべきだなと、中学生では遅いと思います。
　小学校で先ほど言った地元を誇れる子どもを育成するには、小学校の段階でスタートしないと遅いのかと思います。

○市長
　崇委員

○菊池崇委員
　このアンケートがあまりにも衝撃的だったので、遠野のことだけ話しましたが、外から来ていただくためのプレゼンテーションに、力を入れていかなければならないと思いますし、新しい部活動をつくっていく。例えば、女子サッカーであれば、遠野の地域性に合っているし、全国に近いクラブ活動になっていくだろうと考えられますので、岩手県内、県外からも来るようなアピールができればいいのではない

かと思います。もちろん馬術部も含めてです。以上です。

○市長

委員の皆さんから貴重な意見をいただきました。これから考えなければならない課題も改めて受けることになりました。事務局も、この委員の皆様の意見を聞きながら、それぞれアクションプラン、応援事業の様々な課題を一つひとつクリアしていくということの緻密な、あくまでも教育の問題で、子どもの将来に関わってくる問題ですから、行政の都合で以て云々ということじゃなりませんし、また、そうすべき課題でもありません。

やはり、冷静に対応していかなければならないという課題であるということは、私も市長という職の中で、しっかりと自覚しているつもりでありますから、委員の皆様にも、それを踏まえながら、さらに応援事業、さらにアクションプラン、これを確実なものとして、一つひとつ乗り越えていくという、限られた時間の中で結果を出さなければならない、難しい課題でありますから、大胆に且つ、デリケートに且つ、スピーディーに、そしてバランスというカタカナ語が出てくるわけでありますけども、そのような問題ではないかなと思っております。

委員の皆さんの意見をよく聞いて、そして今日の総合教育会議でありますけども、この総合教育会議のあり方、応援事業、様々整理されたもの、それに伴う取組の工程表については、このとおり、総合教育会議のこの場で、了とすることでよろしいでしょうか。

これで進めてほしいということで、中高連携サポート室、教育委員会そして、今日出席されておりますメンバーの中で、最後の方にこういう書き込みがあったわけでありますが、アクションプランの応援事業の中で21ページ、子育て総合支援センター、まちづくり再生担当、市民センター、産業振興部、防災危機管理課、さらには遠野文化研究センターと整理されているわけでありますから、こういった総合力で、この課題に立ち向かって行くということを、この場で改めて確認したいと思っております。

最後になりますが、一昨日でありますけども、岩手大学の全学部の学生を対象として、年１回、私、講座をもらっておりまして、10年くらいになりますが、約２時間、学生と向き合って、遠野の地域づくり、まちづくり、という一つの中で、少子高齢化という課題に立ち向かっているということを学生諸君に問いかけてまいりました。市長さん１時間ですよ、１時間過ぎれば、学生が携帯を始めます。スマホ始めます。だから１時間ですよという話をされ、うつ伏せになる者、居眠りする者もありますよと、良くて１時間ですよと、当時の教授に言われました。確実に若い世代が変わってきていると一昨日の300人近い学生と向き合って感じてまいりました。

教育長が前にいますけども、学力向上も含めて授業力、それをやはり生徒という子どもたちに向き合う教師の授業力をどのように高めていくかというのも、大切なことじゃないかと、自ら学生の教壇に立って感じてきました。

そして、山崎さんという講座を担当してくださった教授ですが、きちんと事例など持ち出しながら、語りかけるような授業展開をしていくと、ちゃんと学生も応えてくれます。ただ一方的に授業しても、学生は応えてくれませんという話を、私もそういうことを何度も目にするものですから、色々なことを踏まえながら、語りかけるように、そしてまた一方においては、何が課題なのかと話をすると、すごくいいコメントを寄せてくれるんですね、やはりその、教育という現場の中にあっては、教育長の方でもよく考えていただきたい部分でありますけれども、向き合う教師集団の授業力についても、すぐに結果を出せる話じゃないです。でも、そのために

はいろんな研修を踏まえ、いろんな方々とお互い切磋琢磨する、お互い教師集団が自ら高まっていくという部分においては、人づくりですから、予算もほしいだけじゃだめですよ。市単独での予算も考えるぞという気持ちでやっていかないと、それが噛合えば、学力向上も見えてくるかなと思います。私は、そう思っていますが、ここまで教育長にプレッシャーをかけるような言い方は、市長としてやってはいけないと言われておりますが、プレッシャーじゃありませんから、お互いにやっていきましょうと、私らも頑張るから一緒に頑張っていきましょうという、そういう意味ですから。そういう方向で良い教育環境を遠野市で作っていく協議の場にしていきたいと思っておりますので、そのことを申し上げて、今日の総合教育会議の総括とさせていただきますので、よろしくどうぞお願い致します。事務局にお返しします。

○教育部長

それでは５番のその他ですが、委員の皆様から何かありますでしょうか。無いようなので、以上をもちまして第１回遠野市総合教育会議を閉会といたします。長時間にわたりご協議いただきまして、ありがとうございました。

閉会　　12 時 17 分

会議録作成者　　遠野市長　　本　　田　　敏　　秋

署　名　　教育長

署　名　　教育委員

署　名　　教育委員

署　名　　教育委員

署　名　　教育委員